

西瓜糖第六回公演

「レバア」

作 秋之桜子

演出 寺十吾

◆登場人物◆

ぼっちゃん

オンリー

奥さん

焼き鳥屋

黒紋付

ジイさん

センセイ

お嬢さん

おばさん

担当者

復員兵

チャーリー(声のみ)

昭和二十二年の東京・早春——四谷あたり
元は洒落た洋館だった家。今は煤などで汚れている
何人かが共同で住んでいるらしく、いくつかの布団や生活用品、文机や書籍が雑多に置か
れている

奥には、この部屋の家主と娘の部屋

共同の場所に飲み水が入っている瓶が置かれている

——夕方

七厘には細々と炭がつき、肉のようなものが焼かれ、そばにはパイナップルの空き缶が置
かれている

七厘のまわりには、国民帽をかぶり、油で汚れた洋服の男（焼き鳥屋）と、着物に割烹着
を着た女（奥さん）、開襟シャツに黒いズボンをはいた若い男（ぼっちゃん）、黒紋付を着
た女（黒紋付）、派手なワンピースを着た女（オンリー）

焼き鳥屋は片目が義眼。黒紋付は芸者。派手なワンピースの女は娼婦の様相。ぼっちゃん
は吃音があり、奥さんと寄り添っている

皆と離れた——いるかいにかわからないような——所で、シケモクをばらし、タバコを
作っている初老の男（ジイさん）。彼は耳が遠い
皆、肉のようなもの——に、集中している

ぼっちゃんが焼き上がりが待てずに手を伸ばす

ぼっちゃん

も、もう、で、できた、だろ

オンリー

あかんでぼっちゃん、まだや。火傷するで

ぼっちゃん

マ、ママ、ママ、もう、いいだろう？

奥さん

いい子だから

焼き鳥屋

待つのも勉強やぞ

ぼっちゃん

け、けど、も、もう、い、いい匂い、する、するする

オンリー

まあたしかに（真似て）いい匂い、する、するする

皆、肉を匂う

黒紋付

けど良くこれだけ柔らかくなったねえ

焼き鳥屋

奥さんの苦心の作ちゃ

黒紋付

何したの？

奥さん

パイナップルのお汁

奥さんはパイナップルの空き缶を持ち上げる

奥さん

（オンリーに）あなたに頂いたのに漬けてみたら、うんと柔らかくなってくれたのよ

オンリー

へえ

黒紋付

パイナップルの汁で、そりや知恵だわ

オンリーは♪東京の花売り娘♪を歌い出す
黒紋付と奥さんもつられて一緒に歌い出す

ぼっちゃん

ば、ば、ばいな、ふるっ

ぼっちゃんは取ろうとするが、焼き鳥屋に阻止され、その拍子に転んでしまう

ぼっちゃん

あ、あいつ、あいつ、ぶった

奥さん

ぶってなんかないわ

ぼっちゃん

で、でも、イタイ、イタイよお

奥さん

大丈夫

ぼっちゃん

ママ、ママ、ママ……

奥さん

大丈夫だから、ね

黒紋付

大変だねえ

奥さん

いいえ

オンリー

肉、売り娘

黒紋付

肉売りって（苦笑）あんたが言うど洒落になんないよ

オンリー

食べるとグーッとやねん、アタイ

ジジジと肉の焼ける音——焼き鳥屋は肉をひっくり返し、丁寧に焼く

焼き鳥屋

よし、もうええやろう

焼き鳥屋は皿の上に、焼けたものを丁寧にのせる

焼き鳥屋

見場は悪ないのう

奥さん

あとはお味ねえ

焼き鳥屋

皆、一切れずつ、食べてみちゃんない

皆

いただきますっ

皆が手を出そうとした瞬間、ぼっちゃんが皿をひったくる

黒紋付

あ、こら

オンリー

ノウツ！

焼き鳥屋

おい

ぼっちゃん

ぼ、ぼ、ボクんだ、これは、ボクんだ

ぼっちゃんは逃げながら肉を食べ、皆は追いかける

奥さん
ぼっちゃん
黒紋付

ダメよ、全部はダメ、ねえいい子だから、返して頂戴
パ、パ、パ、パイナップルッ
ぼっちゃん、それは違うよ

しゃれた帽子をかぶり、着物を着た男（センセイ）が入って来て、逃げようとするぼっちゃんを通せんぼする——以下、通せんぼしながら

黒紋付
奥さん
センセイ
オンリー
センセイ
オンリー
センセイ

あらセンセ、おかえんなさい
病院、もうよろしいの？
うんと良い子にしていたからね……あく、疲れた
センセイ、その子、逃がさんといっつ！
ぼっちゃん、何したの？
肉、とつたんや
肉？ ……ああ、これかい

センセイはぼっちゃんが手にしていた肉を取り上げると、パクリと食べてしまう

全員
ぼっちゃん

あつ
あ、ば、ば、バカああつ

ぼっちゃんは怒って外へと出て行ってしまふ

センセイ
黒紋付
オンリー
奥さん
焼き鳥屋
奥さん
焼き鳥屋
黒紋付
センセイ
奥さん
センセイ
黒紋付
センセイ
焼き鳥屋

（もぐもぐしながら） どうしてボク、怒られたの？
役にたたない人だねえ
（もぐもぐしながら） ん？
たたへんどころか、この人、全部、食べてもうたがな
どうしましょう、あれしか、作ってなくてよ
いや、お味見役にはピツタリやぞ
え？
センセイやったら、ピンからキリまで知っとられるはずやけ
そうだねえ
（もぐもぐしながら） ん
センセイ、そちら、いかが？
（もぐもぐしながら） そちら？
だから、それのお味だよ
（もぐもぐしながら） 不味いよ
ええ？
腹が減ってなきや誰がこんなもの……まあ噛み応えはあるが……何の肉？
正しくは皮でして

センセイ
オンリー

(もぐもぐしながら) 皮？
正真正銘の牛の、しかもアメリカさんのグーツドな皮やで

オンリーは皮を剥がれた男物の大きな革靴を持ち上げる

センセイ

うへっ

センセイ、口の中に残った肉を吐き出す。オンリーは「もったいな」と、吐き出されたカケラを拾って口に入れる

センセイ

水、水

奥さん

……まあ、そんなにひどくて？

黒紋付

大袈裟だねえ、さつきまでモグモグやってた癖に

センセイ

いいから、早く水を

焼き鳥屋が瓶から柄杓でコップに水をすくい持っていく。センセイは水で口をゆすぐが、吐き出さずにその水を飲んでしまう

センセイ

あ……飲み込んだ……

ジイさんがヒヒヒと笑い、皆もおかしい

センセイ

笑うなよ

ジイさん

はあ？

焼き鳥屋

センセイが笑うなち

ジイさん

なんです？

黒紋付

センセイがね、笑うなとおっしゃってだよ

ジイさん

なんですかい？

ジイさんはよく聞こうと立ち上がり、オンリーは驚く

オンリー

わああああっ

黒紋付

な、なんだい？

オンリーの声に皆も驚くが、オンリーはジイさんの足を指さしている

オンリー

足っ、足っ

焼き鳥屋

足？

オンリー

あの人、足、ある

黒紋付

は？？

オンリー
奥さん
だっていつも座ってるから、ガード下のイザリのおっちゃんのお仲間やと
耳よ、あの方の悪いのは耳

ジイさんは、股間を押える

オンリー
焼き鳥屋
あそこも悪いん？
小便やろうよ

ジイさんは外へ(便所)と出て行く

焼き鳥屋

ほらの

あゝ、驚いた

オンリー
黒紋付
そりゃ、こつちの台詞だよ

けど、あのジイさん、いつからおんの？

オンリー
黒紋付
(センセイに)いつからだっけ？

…ボクが病院に精神で入れられる頃には、確かもうあそこでタバコ巻いてたな

オンリー
焼き鳥屋
俺より後やろか

私よりも前かしら？

オンリー
奥さん
呑気やなあ。気つけなあかんで。最近アメリカさんより日本人の方が怖いねんから。こ

ないだもな、仲間の子が金取られたうえに首絞められて川にドボンや

オンリー
奥さん
まあ…警察には届けたの？

アホ。届けたら、うちら、商売できひんくなるやろ

オンリー
奥さん
あら

「あら」って、あんたらも同じやで。闇の仕事はエブリボデ トガザーや

オンリー
焼き鳥屋
まあタチの悪いのはどこんでもおる。国は関係ないちゃ

やだやだ、戦争は終わったってのに

オンリー
黒紋付
オンリーはジイさんの様子を見に行くが、キチンとした身なりの女(お嬢さん)が、走っ
て入って来たので、ぶつかりそうになる

オンリー
お嬢さん
おう、ソーリー

ごめんなさい

お嬢さんは小さく頭を下げ、部屋へと去ろうとする

オンリー
お嬢さん
どうしたの、蒼い顔して

お嬢さんは少し驚いたようにセンセイを見る

お嬢さん
お嬢さん
…お父さん？

センセイ 無事、生還しましたよ

お嬢さん ……電報を下さったら、迎えに行きましたのに

センセイ 良い子にしていたら早く解放してくれた。君は仕事だと思ったものだから

お嬢さん ……

センセイ でね、聞いてくれよ、ボク今、靴を食べさせられたんだぜ

お嬢さん 靴を？

オンリー 自分から食べはったんやで

お嬢さん ……またそんな……

センセイ え？（気付いて）いや、これは幻想じゃないよ

お嬢さん ……

センセイ 違う違う……参ったな、言うんじゃなかった

奥さん 心配なさらないで。センセイが召し上がったのはちゃんと処理したものですから

お嬢さん ……え？

オンリー これや、これ

オンリーはお嬢さんに皮がはがれた靴を見せる

お嬢さん じゃあ、本当に……

センセイ そうなんだ。ヒドイ話だろ？（奥さんに）死人が出て知りませんよ

奥さん 死人？

センセイ 靴の皮をなめすのに劇薬を使うと聞いたことがある。食べていい訳がない

オンリー けどセンセイ、食べたくせにピンピンしてるやん

センセイ わからんぜ。明日の朝、冷たくなっていたらどうする

奥さん ……まあ

オンリー な、ワケないって

センセイ うらめしやうだ

黒紋付 バカだねえ

オンリーと黒紋付、センセイは笑う

お嬢さん 願いが叶うじゃありませんか

センセイ え？

お嬢さん 「死にたい」「死にたい」とおっしゃっていたもの

奥さん 大変、どうしましょう

皆、奥さんを見る

奥さん あの皮、うちの子も食べちゃったわ……いやだ……

奥さん、慌てて外へと向かう

センセイ
お嬢さん
センセイ

(お嬢さんに)あの
……
死ねなくてごめんなさい

お嬢さんは奥へと去ると、焼き鳥屋と黒紋付、オンリーは吹き出す

黒紋付

「死ねなくてごめんなさい」たあいね

オンリー

ほんまあ

センセイ

だってああ睨まれたら、あやまりたくもなるよ

焼き鳥屋

心配しとらしたけ嬢さん

センセイ

そうなの？

黒紋付

そら娘だもの。センセイ、ほんとにちゃんと葉は抜けて？

センセイ

はい。まっさらな身体になりました(皆に)その節は迷惑かけたねえ

焼き鳥屋

もう暴れるのはナシちゃ

黒紋付

「死にたい」「死にたい」もナシ

センセイ

はいはい

ジイさんが帰ってくる。その後ろから闇物資の物売り女(おばさん)が、箱を下げ入ってくる。やや暗い感じの女である。彼女はいつものようにジイさんから出来上がったタバコをもらい、数を数えると、それに見合った額の金を渡す。オンリーはおばさんの箱を覗き込む——以上のやりとりは、次の会話の間に行われる

センセイ

しかし何で靴の皮を食い物にしようと思ったの

焼き鳥屋

駿河台の方に、仕入れに行きましたら、進駐軍の靴がようけ捨てられるとこに当たりましたね。「こら儲けた」ち持って帰ったら、どれもこれもみなデカイ。闇に出しても売れんし、直すにや金がかかるし、ほたるんは惜しいってやとつたら、奥さんが(真似をして)

「それ、元は牛の皮よねえ」ち

センセイ

ええ？！ 言い出しつぺはあのヒトかい？ あらら、世も末だな

黒紋付

その「末」を生き抜くための知恵を出したんだよ奥さんは。褒めてこそすれさ

センセイ

民主主義バンザイ！

焼き鳥屋

けど、噛み応えはあったとすな？

センセイ

なにが

焼き鳥屋

靴の皮ですちや

センセイ

ああ。けどありすぎた。あれじゃ……まるでガムだ

焼き鳥屋

ガムか、そりやええのう

センセイ

え？

焼き鳥屋

「牛皮ガム」ですけ、こら売れる

センセイ

オイ、やめるよ、焼き鳥の横に並べるのは

焼き鳥屋

ちっちゃーく書けばいいんです。「牛皮ガム、元は靴、腹下し注意」ちね。それでも食べた

い奴はおる。ほら目くらになるちわかっつても、バクダン飲むのと同じちゃ

黒紋付はセンセイをつつく

センセイ 負けた。ボクはイチ抜けるよ

おばさん (焼き鳥屋に) あんた、店の前に客がならんどったよ

焼き鳥屋 もうね。センセイ、今、何時で?

センセイは懐中時計を出す、止まっている

センセイ ダメだ、また止まってる

黒紋付 それ、動くことあるの?

焼き鳥屋 (黒紋付に) まだおると?

黒紋付 ああ、今日は遅入りだから

焼き鳥屋 そやったら、先に店に行くち奥さんに言うちよつてくれ

黒紋付 いいよ

焼き鳥屋は準備をし、やがて出て行く

センセイ (ねじをまきながら) よう! おばさん

おばさん センセイ、お元気そうで

センセイ うん、元気になったよ

おばさんはセンセイに紙を差し出す

センセイ これなに?

おばさん ツケを、今までの分をお支払い願います

センセイ ええ? ……うわ、こんなに?

おばさん はい、たまつとります

センセイ けどボク、今日、退院してきたばかりだよ

おばさん ツケ残されたまんまいなくなられて、ワシ困りましたんで

センセイ しかしどうにも、持ち合わせがないからなあ

おばさん、じつとセンセイを見る

センセイ おばさん、しばらく待っててくれれば……

おばさん じゃ、そのお帽子を

センセイ え?

おばさん そのお帽子、カタにもらっていきます

センセイ いや、この帽子はこまる。これはイタリーので……祖父の形見なんだ

おばさん
カタがないと踏み倒されますんで
黒紋付 (苦笑し) センセイ、信用ゼロだね
センセイ
くそ……

オンリーがおばさんの前に口紅を差し出す

オンリー
これ、おいくら？

おばさん
三十円

ちよつとおばちゃん、高すぎや

オンリー
アメリカの口紅だ。嫌なら買わんでいい

おばさん
ほな、これで

オンリーは腹巻の中からシワシワの十ドル札を出す

オンリー
お釣りはチップや

おばさん
こりやどうも

おばさんは札をとうとうとするがオンリーは渡さない

おばさん
おい

オンリー
そやから、センセイの帽子とりあげるのやめたげて

おばさん
……

オンリー
だってその帽子なかったら、センセイ、チンケやもん

センセイ
そうなんだよ (おばさんに) 実際、これがないとチンケなんです

オンリー
どないする？ 帽子をとるか、十ドルとるか

おばさん
まいどあり

オンリーはお札を渡し、おばさんは丁寧にしまう。オンリーはコンパクトを出すと、早速、口紅をつけ出す

おばさん
チョコレートの味がする、言うとりなさった

オンリー
(なめて) あ、するわ、チョコや、これ

黒紋付
チョコの味の口紅？

オンリー
さくらんぼ味もあるんやで。アメリカさんはルージも味つきや。ようこんなとこと戦争やったわ (コンパクトにうつして) イマイチやな (黒紋付に) 姉さん、これあげる

黒紋付
だって今あんた、十ドルも出して……

オンリー
またチャーリーにこうでもらうもん。あのボーイ、うちのエクサラントボデエにメロメロ

やから

黒紋付
豪勢だねえ、じゃ遠慮なく

オンリー
姉さんもお座敷で踊ってんとオンリーになればいいのに。豪勢出来るし、楽やで。毎日、

遊んでゴロゴロするだけでいいねんから

黒紋付 あたしはお座敷で十分

オンリー

もったいないわ、姉さんのファン、いっぱいおんのに。ビューテービューテー、言われてんの知ってるやろ？ ガッポリ貰がせて、もっといいとこ住みいな

センセイ

おい、ボクの家は失格かい？

オンリー

だって臭いもん。今日はとくに……なんか、すえた匂いする

おばさん

じゃセンセイまた、ツケはツケです

センセイ

わかってるさ

ジープがやって来て、クラクションを鳴らす

オンリー

あ、チャーリーや（品を作って）もうう、いって言うのにむかえにくるねんから

黒紋付

ごちそうさま

オンリー

おばちゃん、乗つけたるか？

おばさん

ワシは結構で

おばさんは出て行く

オンリー

なんだい

クラクションの音

オンリー

（外に）チャーリー、ウエイトや。ほな皆さん、ごきげんよう。あ、センセエ、今度、パフォーム持って来てあげるわ

オンリーは「東京の花売り娘」を口ずさみながら出て行き、チャーリーの笑い声とともにジープが走り去る

センセイ

景気がいいね、あの洋パン

黒紋付

良い人のオンリーになれたのよ

センセイ

けど悲しいかな、育ちが悪いのは治らん

黒紋付

救ってもらっておいてなにさ

センセイ

ボクが吐き出した靴の皮、拾って食べてたぜ。アレが臭いというならここは相当……

黒紋付

臭いのはセンセイだよ

センセイ

ボク？

黒紋付はセンセイの身体を匂う

黒紋付

うん、やっぱり、ここからにおってる

センセイ

（匂って）そーいやずいぶん入ってないや。病院の風呂は気持ちが悪くてね

センセイは自分を匂っている黒紋付の身体をつかむ

黒紋付

なに？

センセイ

久しぶりにムラリとした

黒紋付

(奥をみて) いるのよ、お嬢さん

センセイ

無事生還したんだ、少しは御褒美がないと

黒紋付

ハハ

センセイ

まっさらなボク、欲しくないかい？

黒紋付

臭いボクだ

センセイ

頼む、メランコリックになってくれ

黒紋付

無理無理

ぼっちゃんが飛び込むように戻ってくる

奥さんが「待って、待って」と追いかけてくる

ぼっちゃん

こ、こ、これ、いいぜ、いい

ぼっちゃんはセンセイに誇らしげに古靴を見せる

ぼっちゃん

こ、これ、やわらかいんだ、すごく

ぼっちゃん、靴にかじりつく

奥さん

ダメよ汚いわ。ねえやめて

奥さんはぼっちゃんから靴を取り上げようと格闘する——と、とつぜん、ぼっちゃんは吐き気をもよおし「ウエツ」とやりだす

センセイ

おい、吐くなら外だ、ここで吐いたら、さらに臭くなる

センセイはぼっちゃんを外に連れ出し、奥さんは「すみません」といいながらついていく。黒紋付は手鏡を出すとオンリーにもらった口紅を塗り、鏡に映る自分の顔を見る

黒紋付

ビューター、か

黒紋付、小さく笑うと口紅をぬぐう

ジイさん

いい匂いがする

黒紋付、ジイさんを見る

× × × × ×

——その日の夜

暗い中、奥さんが子守歌（※中国地方の子守歌）を小さく口ずさんでいる声が聞こえる。ジイさんは一人で、奥さんとぼつちゃんとは同じ布団で寝ている。焼き鳥屋の姿はない。センセイがランタンを持ち静かに出て来ると、文机の引き出しなどをあけ、薬を探す

センセイ

……全部、捨てられちゃったか……
ううう

奥さん

センセイはビクリとするが、奥さんの声だと気付く

センセイ

……悩み多き、我ら……だな

センセイはやがて奥へと去る。奥さんは唸り、ぼつちゃんは嫌そうに寝返りを打ち、手で耳を押える

ジープの止まる音とアメリカ人たちの笑い声

黒紋付（声）

サンキュー、サンキュー。グンナイね

ジープが走り去る音

黒紋付が茶色い紙袋を抱えて帰ってくる

黒紋付

（小さく）ああ、疲れた……

黒紋付は帯から紙包みを出すと中のシケモクをジイさんの場所に「おみやげ」と言いながら、パラパラと落とす。奥さんのうなされる声が大きくなってくる

黒紋付

今日のはシツコイねえ。奥さん、大丈夫？ ……奥さん

奥さんは叫び声とともに黒紋付を突き飛ばす

黒紋付

わああっ

奥さん

（目を覚まし）あ

黒紋付

アタタ、あんた、意外と力あるんだね

奥さん

……わたし……？

黒紋付

そうだよ、イテテテ

奥さん

ごめんなさい

黒紋付 ……つたく。どんな夢、見てるのさいつも
奥さん え？

黒紋付 だから(真似て)「あああ」の元(もと)

奥さん ……真っ赤な虫にね、追いかけられるんですの

黒紋付 真っ赤な虫？

奥さん 真っ赤な、蜂のような小さな虫がどこからともなくブーンブーンって湧いてきて

黒紋付 (身震いして)うわ

奥さん 逃げても逃げてもまとわりついて離れなくて……すごく苦しくなって……でも、私だけじ

やないの……誰か、誰かも一緒に……あれは誰かしら……赤い虫にどんどん……

(制して)も、もういいよ、思い出さなくて

奥さん そお？

黒紋付 あたし、虫、嫌いなんだよ

黒紋付は紙袋の中から、缶詰とウイスキーを出す

奥さん あら

奥さんはいそいそとコップを持って、黒紋付のそばに座る

奥さん ご相伴

黒紋付 手際がいいこと、焼き鳥屋で学習したね

奥さん ええ、日々、学ぶことばかりですわ

黒紋付 そらご立派

黒紋付は酒を注ぎ二人は乾杯をし、奥さんはグイッと飲む

奥さん 美味しい

黒紋付 あんた、こつちも学習したの

お客様に勧められれば、嫌とは言えませんもの。それにどうやら私、好きなようですわ

奥さんはまたまたグイッとやる

黒紋付 もう少し味わいな。アメリカの将校さんから頂いた、いいお酒なんだから

奥さん (酒瓶をみて) これどこかで……ブラック&ホワイト

黒紋付 はあ？

奥さん 黒と白

黒紋付 なにそれ

奥さん このお酒の名前ですわ

黒紋付 黒と白？ 変な名前つけるねアメリカは

ぼっちゃんが寝返りをうち奥さんは布団を直しに行く

どう？ ぼっちゃん

黒紋付 奥さん 少し吐いたらケロリですわ。でもやはり皮のせいかしら

黒紋付 奥さん まあ所詮、靴は靴だからね

奥さん 牛皮ガムを作るって、張り切ってらっしゃったけど、やっぱり危ないわねえ（焼き鳥屋の場所を見て）まだ、帰ってらっしゃらない

黒紋付 奥さん どこ行っただの？

黒紋付 奥さん ……お店をしめたあと、奥様をまた探しに……

黒紋付 奥さん まだ行ってるの？ 諦めが悪い人だねえ

奥さんはまた酒を飲み始める

奥さん これ……旦那様の書斎にあったんだわ、このお酒

黒紋付 奥さん へえ、あなたの旦那かい？

奥さん （うなずき）はつきりと覚えていますわ。あの人、大事に大事に、大事に大事にしまいでいたのに召し上がる前にドツカン……

奥さん、笑い出す

黒紋付 奥さん 泣くのかと思ったら笑ったよこの人

奥さん だって可笑しいわ。そのお酒をあなたと二人、ドシドシやっているんだもの

黒紋付 奥さん ドシドシやってんのはあんただけど

奥さんは勝手に酒を注ぎだす

黒紋付 奥さん あんた、ヘンテコだね

奥さん ヘンテコ？

黒紋付 奥さん だってその隅でぼっちゃんと二人でビービー泣いてた「奥さん」がさ、今じゃ、焼き鳥焼いてんだもん

奥さん 私、そんなに泣いて？

黒紋付 奥さん 泣いてたさメソメソメソメソ、自分だけが悲劇みたいに。これだから山の手の女はって思っただよ

奥さん 大変だったわねえ

黒紋付 奥さん ヒト事かい

奥さん ごめんなさい

奥さんは屋根の上へとあがり、黒紋付は驚き「ちょっと危ないよ！」などと、奥さんを心配し、屋根へと上る

奥さん

ねえあなた、私ね、闇市というところで焼き鳥を焼いていますのよ。そしてね、それを売ってお金も頂いているんですの。しらない男の方に御酌も出来るし、手を握られてもへっちゃらよ。お酒だつて、うんと飲めるようになりましたのよ(お酒を飲む)ご覧になって、ブラックアンドホワイトよ。ねえあなた、私、わかりましたの。私の本性はこちら側だったんですわ。私、こちら側の人間だったんです
いまのなに？

奥さん

旦那様にね、報告をしなくちゃとずっと思っていましたの。だから……あら、お墓でなくっちゃダメかしら

黒紋付

どこでやったつておんなしだよ。よし、私もやってみようかな(奥さんを真似て)「あなた」

黒紋付、ふと考えて

黒紋付

どの「あなた」に報告すりやいいんだろ

奥さん

さあ

奥さん、お酒を飲もうとするが

奥さん

なくなっちゃった……

黒紋付

欲しけりや、またもらつてきてあげるよ

奥さん

嬉しい

奥さん、屋根からおり、黒紋付は「ああもう」と唸りながら、奥さんを追いかける。奥さんはふらふらと降りながら「東京の酒飲み娘」と口ずさむ
奥さんは黒紋付の下駄を履いている

黒紋付

ちよつと、それ、あたしの下駄だよっ

奥さん

お酒……

黒紋付

あたしんとこに隠しとくから、内緒でやるんだよ

奥さん

ありがとう

奥さんは焼き鳥屋の場所にゴロリと横になる

黒紋付

そこはあんたの寝床じゃないよ

奥さんは寝てしまう

黒紋付

……こちら側、ねえ

黒紋付は酒の瓶をふる

黒紋付

ほんとに全部、飲んじまいやった

焼き鳥屋が帰ってきて、自分の場所に転がっている奥さんを見る

黒紋付

あら、おかえんなさい

焼き鳥屋

(奥さんを見て)どうしたと

黒紋付

酔っぱらったのよ

焼き鳥屋

飲ましたんね

黒紋付

飲んだんだよ

焼き鳥屋

好いとつちやね、こう見えて……

黒紋付

よくわかった

焼き鳥屋

次は飲まさんでの。この頃じゃカストリやバクダンにも手出すようになって危ないけ

焼き鳥屋は黒紋付に自分の毛布を渡し、黒紋付は奥さんにかける

黒紋付

あんたいい人雇ったよ

焼き鳥屋

ええ？

黒紋付

商売繁盛だろ？ こういう素人女に男は弱いから

焼き鳥屋

焼き鳥、食わしたったら、勝手についてきたんじや

黒紋付

ハハ、悲劇の奥様も食い気には勝てなかったか

焼き鳥屋は焼き鳥の道具を片付けている

黒紋付

一緒になっちまえばいいのに

焼き鳥屋

育ちが違う

黒紋付

日本人、みーんな丸裸になったんだ、育ちもなにもあるもんか

焼き鳥屋

……

黒紋付

奥さん、言ってたよ「こちら側の人間だった」って

焼き鳥屋

こちら側？

黒紋付

降りて来て下さったんだろ、下々の元へ

焼き鳥屋

……ふん

黒紋付

女房の身体、いつまで探せば気がすむのさ。とつくに終わったんだよ戦争は

焼き鳥屋

そう思えりや簡単ちや

焼き鳥屋は片目を押える

黒紋付

……傷むのかい？

焼き鳥屋は答えない

× × × × ×

次の日の早朝——皆、ぐっすり寝ているがセンセイは起きてボンヤリしている。お嬢さんが奥の部屋から出て来る

センセイ
もう出勤かい？

お嬢さん
……ずっとそこに？

センセイ
いや目が覚めてね……それから

……

お嬢さん
キミは大丈夫かい？

センセイ
え？

お嬢さん
昨日、帰って来た時、顔色があまりよくなかったから。ボクはほら病院にいたから、そういうのがよくわかるのさ

お嬢さん
仕事のせいですわ。このところ帳簿付けがたてこんでいますから

センセイ
けれど身体を壊しちや元も子もないからね

お嬢さん
あなたに言われたくはありません

センセイ
まあそうだけど

お嬢さんは出て行こうとする

センセイ
ねえ、まだ早いよ、働くには

センセイは懐中時計を見る——が、また止まっている

センセイ
クソ、こうしよつちゅう止まってちや……

若い女（担当者）が勢いよく入ってきて、センセイをみつける

担当者
ほんとだ、帰ってきてる

お嬢さん
では、行ってきます

お嬢さんは担当者に頭を下げると出て行く

センセイ
間が悪い

担当者
え？

センセイ
キミは間が悪いと言っているんだ

担当者
だってセンセイッ

センセイ
シ〜〜〜〜ッ

センセイは寝ている者たちを担当者に見せる

担当者 あら皆さん、まだ？

センセイ 夜の商売でお疲れなんだ、起こすなよ

担当者は抜き足差し足、センセイに近づく

センセイ 君は森川君の担当だろ、いつものはどうしたの

担当者 風邪をひいてしまいました

センセイ 呑気病だな

担当者 でもこの家、教えて頂いた通りでしたわ。「坂道をあがると、ポツンと寂しげな白い洋館があるから」って

センセイ ハハ、ポツンと寂しげか

担当者 中は、外から見るよりは広いですけど……ずいぶん……

センセイ ぼろいだろ

担当者 ええ

センセイ 臭いだろ

担当者 ええ

センセイ 正直でよろしい

担当者 ありがとうございます

センセイ ……あれ？ でも、誰に聞いたの？

担当者 は？

ボクが帰って来たコトはまだこの家のものしか知らんはずだが

担当者 闇売りのおばさんがセンセイのツケを払ってくれと今朝、社にいらしたので

センセイ うそだろ

担当者 死んでりや餞別とあきらめもするが生きてるならその分はもらう。けれど、あの様子じゃ

あ、本人からは当分、とれないだろうからって

センセイ ……やるなおばさん

担当者 編集長が肩代わりをされました。それで、今ある原稿だけでいいから、とってこいと言われまして

借金のカタか、生還したばかりのボクに容赦ないな(原稿をまとめて)でも、今はこれしかないよ

あら、あった。偉い偉い

担当者 なに？

原稿があれば褒めてやれと編集長が

センセイ ……なめられたもんだ

担当者 みんな心配しています

センセイ 嘘つけ

担当者 本当です

センセイ キミの顔には「心配」の文字がないぞ

担当者は自分の顔を触る

センセイ

触ったってわかるもんか、このインチキ！

担当者

インチキにインチキと言われたくありません

センセイ

おい

担当者

(言い過ぎたかと思ひ)すみません

担当者は寝ているものたちの顔を覗き込む

担当者

家賃も取らずに、罹災した方たちを住まわせてあげているというのは本当なんですね、偉いなあ

センセイ

そこも褒めてやれと言われたのかい

担当者

いえ、これは私の実感です

センセイ

そら、光栄だね

担当者

皆さんの……名前も素性もお知りにならないというのも本当なのですか？

センセイ

いずれ皆、ここを出て行くんだ。知らない方があと腐れがなくていい

担当者

……はあ

センセイ

しかし、想像するのは自由だからね。彼らはボクの創作の糧さ

担当者

なるほどお

担当者は黒紋付を見つめる

担当者

お葬式だったのですか？ この方

センセイ

え？

担当者

喪服で寝てらっしゃるから

センセイ

ああ、その人はずっとそれさ

担当者

どうして？

センセイ

考えてごらん。想像するんだ

担当者、考える

担当者

ずっと喪服なんて悲しいわ。きっと大切な方をなくされて、その死をのりこえられず……

センセイ

つまらん。正解はコスチュームさ

担当者

コスチューム？

センセイ

衣裳なのさ。こちら、アメリカさんから金を巻き上げるため身を挺して働いてらっしゃる

担当者、黒紋付から飛びのく

センセイ

パンパンが珍しいわけじゃなからう

奥さん (担当者を見て) ……どなた？

担当者 (二人の様子に赤くなって) わ、わ、わたし

センセイ 何、赤くなってるの、これはボクの想像だよ

担当者 は？

センセイ 今の話は、ボクの想像の物語

担当者 ……え

センセイ 興奮したの？ 案外いやらしいんだなキミ

担当者は机の上の原稿を取り上げる

センセイ おい、それはまだ

担当者 借金のカタですわ

担当者が慌てて出て行こうとするとジイさんが屁をする

担当者 わっ、ここにも人がっ

担当者は驚き、走り去る

黒紋付 (目を覚まし) なに、なんの騒ぎ？

センセイ 気のふれた女が紛れ込んだんだ

奥さん (ぼっちゃんを抱きしめて) まあ怖い

ぼっちゃん ママあ

焼き鳥屋 センセイ、そら、担当さんに可愛そうやろ

センセイ キミ、起きてたの

焼き鳥屋 若い女に覗かれて起きん男がおりますかい…いや、いい匂いがした

センセイ 変態め

焼き鳥屋 そら男ですけ

センセイ ハハ

リュックを背負った復員兵がフラフラと入ってくる。顔も体も汚れ、まるで大きなゴミのようにもみえる

復員兵 ……わたしの靴……わたしの靴が……

復員兵は七厘のそばにある靴にしがみつく

復員兵 ここにあった……ここに……

黒紋付 この人、裸足だよ

ぼっちゃんが復員兵から靴をもぎとる

復員兵 ……あ

ぼっちゃん これはぼ、ぼくんだ、ぼ、ぼくの

復員兵 返してくれ

奥さん この人からとったの？

ぼっちゃん ち、ちがう、ちがう

奥さん 返してあげて

ぼっちゃん ち、ちがう、ちがうよ

奥さん 返しなさい

焼き鳥屋 ぼっちゃん、盗みはいけんぞ

ぼっちゃん や、やだ、やだ、やだ

復員兵、ぼっちゃんに飛びつこうとして倒れ込む

センセイ おい、キミ、大丈夫か？ おい

復員兵はグツタリとして動けない

× × × × × ×

——その夕方

お嬢さんが復員兵の面倒をみている。ジイさんはタバコを作っているが、他のものの姿は
見えない

やがて復員兵が目を覚ます

復員兵 ……ここは

お嬢さん あなたが靴を探していらしたところ

復員兵 ……靴

復員兵は自分の足を見る——が、靴はない

お嬢さん あそこに

リュックサックの近くに置いてある革靴

復員兵は靴を履こうとするがふらつき、うまく履けない様子。お嬢さんが履かせてやる

お嬢さん ……あら

お嬢さんは彼の足には少し靴が大きいことに気付く

復員兵 ……死んだ友人のものをもらったので
お嬢さん そうですの……

お嬢さん、靴を履かし終わる

復員兵 ……ありがとう

お嬢さん いいえ

復員兵 他の方は……？

お嬢さん 仕事に

復員兵 ……あなたは

お嬢さん わたしは仕事が終わりましたから、交代を

復員兵 みなさん、ご家族ですか

お嬢さん え？

復員兵 こちらにいる

お嬢さん いえ違いますわ、罹災した方たちを父が、引き取って

復員兵 それはご立派なコトを

少しの間

復員兵 お仕事はこの近くですか

お嬢さん いえ、新橋の方ですわ

復員兵 では省線に乗られるんですか？

お嬢さん ええ

復員兵 あんなに混んでいるのは毎日でしょうか？ 驚きました。あれじゃあ……死人がでてもおかしくない

少しの間

復員兵 まだ戻って来たばかりで、何もかもに、驚くばかりです

復員兵は「あ」と腹を押える——腹の虫が鳴ったのだ

お嬢さんはハンドバックからチョコを取り出し、復員兵の前に出す

お嬢さん 父が何か買ってくるとは思うのですが……よかつたら、これ、召し上がって下さい

復員兵がじっとみるので、お嬢さんは慌てる

お嬢さん 米兵から直接、もらったものではありませんわ。会社に、進駐軍から送られてきて、それを頂いて……持っていましたの

復員兵 アメリカの、チョコレートですか
お嬢さん はい。お嫌なら……
復員兵 いえ

彼は、やがて一口かじる

復員兵 ……甘い……

復員兵はガツガツと食べながら、涙を流す

復員兵 負けたんだ

お嬢さん ……え？

復員兵 やはり、負けたんですね日本は

お嬢さん ……

……南方で仲間がどんどん死んでいっても、引き上げ船で餓死した子供を海へ投げ捨てても……丸焼けになった日本を見ても……家族のみなが死んだことを聞かされても……実感が湧かなかったんです。負けたとは思えなかった

お嬢さん ……

復員兵 だって僕らは必死で戦ったんです、最後の一人になってもと、必死で……

お嬢さん ……

でも……これで……これでやっと、理解しました。ヤツラは、コレを食べていたんだ。ただの一兵卒でも、こんなものを、こんな、甘くて、うまいものを、食べられたんだ。負けるはずです、私たちは、負けるはずです

お嬢さん ……

お嬢さんはハンカチを復員兵に渡すが、復員兵はその手を握るとお嬢さんを抱きしめる――が、やがて復員兵はお嬢さん押し倒すとスカートの中に手を入れようとし、お嬢さんはもがく

ジイさん 何しとる

復員兵は驚き、お嬢さんの身体を離す

復員兵 すみません……ボクはなにを……すみません

お嬢さん ……いえ

ジイさん けしからん

復員兵 すみません

ジイさん 若い者が、まったく、けしからん

復員兵 ボクはそんなつもりでは決して

お嬢さん あの方、耳が

復員兵

え？

お嬢さん

耳がお悪くて、ほとんど聞こえませんの

ジイさんはタバコ作りに戻る

お嬢さん

タバコを作ってらっしゃるの。吸い残しのタバコの葉をばらして……闇の方でよく売れる
ようですわ

間

復員兵

……すみません、ボクは……

センセイが鍋を手に入ってくる。二人は瞬間に離れる

センセイ

お、起きたね。さあ、お食べなさい

センセイはシチューが入った鍋を復員兵に渡す

お嬢さん

……いやだ、闇シチューなんて

センセイ

キミ、今、日本で一番、栄養があるものはこれだよ

復員兵は食べようとして「ウツ」となる

センセイ

あれ、ダメかい？

お嬢さん

ほら……

センセイ

匂いはまあアレだが、食べたらうまいよ

お嬢さん

無理なさらなくていいわ

復員兵

いえ……腹の調子が……

お嬢さん

え？

復員兵

……急に、腹が……あの……便所は……

センセイ

前には中であつたんだが、風呂もろとも焼けちまって、今は外の共同のをね

復員兵

……イタタタ……

復員兵がヨチヨチと外に向かうと、ジイさんが復員兵の身体を支え、二人は出て行く

センセイ

ジイさん、優しいね

センセイはHERSHY'Sのチョコレート包装紙を拾う

センセイ

まさか君、チョコレートを食べさせたのかい？

お嬢さん
センセイ
お嬢さん
センセイ

お腹をすかせてらしたから
冗談ポイだぜ。腹。ペコの復員兵がこんなもの食べたなら、刺激が強くて腹に来るに決まってる

……
バカしたな

女の叫び声と「おっこちた」「あらら」という声
センセイとお嬢さん、外へと走る

× × × × ×

——その日の夜

黒紋付、奥さん、焼き鳥屋、ジイさんがいる
ボッチャンは屋根に登っている

黒紋付

(笑い) それで勢い余って便所にドボン?

奥さん

助けられたセンセイにもおジイさんにも匂いがついて大変だとお嬢さんが蒼い顔して店

焼き鳥屋

にいらしてね
そこから銭湯探しちゃ

黒紋付

臭い上に復員さんじゃ、なかなか入れてもらえなかったろ

焼き鳥屋

まったく日本人の変わり身の早さには呆れるのう。万歳万歳ちやっとなったくせに、負けは

全部、兵隊のせいち言いやがる。ジイさんが金握らせてやっとなこや。ジイさん、あれでなかなか、貯めちよってな

黒紋付

けど、センセイと当の本人は、どうしたの?

焼き鳥屋

俺は店があつたけ、風呂に入らんで別れたんだが(大きな声で)ジイさん、センセイたちは

はどこ行つたんね

ジイさん

ああ?

黒紋付

(大きな声で) センセイと復員さん、どうしたの?

ジイさん

ああ?

黒紋付

(大きな声で) センセイと復員さんは?

ジイさん

ああ、兵隊さんの、服をもろてくる言うてなさつたわ

ぼっちゃん

ク、クソ、クソ兵隊

みな、ぼっちゃんを見る

ぼっちゃん

み、みんな、言つてた。へ、兵隊は、く、クソだ、クソつて

奥さん

……ダメよ、そんな

ぼっちゃん

くさい、くさい、クソ兵隊(歌うように) くさい、くさい、くさい、クソ兵隊

焼き鳥屋

ぼっちゃん、やめれ

ぼっちゃん、焼き鳥屋を指さして

ぼっちゃん
お前も、く、く、くさい
なに……？

焼き鳥屋
ぼっちゃん
お前、ゴミ、ゴミ、拾い、み、みんな、言ってた
何、言ってるの？

ママ、ママ、これ、ゴミ、拾い

焼き鳥屋

……
ゴ、ゴ、ゴミ、くさい。ゴ、ゴ、ゴミ、くさいっ

ぼっちゃん

焼き鳥屋、ぼっちゃんの身体をつかむ

焼き鳥屋

なんか、きさん

ぼっちゃん

イタイ、イタイイタイイタイ

焼き鳥屋

なん言いよんか

黒紋付

ちよつと、やめなよ

奥さん

あなた、ねえ、やめて

ぼっちゃん

……ゴミ

焼き鳥屋

きさん

奥さん

やめてっ！

ぼっちゃん

ママ、ママ、ママ

奥さんはぼっちゃんを抱きしめ、ぼっちゃんは泣き出す

センセイ

ただいま

センセイに連れられて復員兵が帰ってくる——とても育ちのよい青年に見える

黒紋付

こりや見違えた

センセイ

なかなかだろ？

黒紋付

びっくりだよ

センセイ

(復員兵に)ほら言った通り、皆さん、みとれてらっしゃる。あ、ボクも御相伴して生き返った。やはり風呂はいいねえ。身体は洗うもんだなあ。ねえジイさん(皆に)アイツ、なかなか、いい身体していたよ

お嬢さんが奥から出て来て、復員兵をみて驚く

復員兵、おじょうさんにおじぎをする

お嬢さん

あの……汚れた洋服は洗って……今、干しています

復員兵

……ありがとうございます

復員兵は自分のリュックを持つ

センセイ

キミ、しばらくここにいればいい

復員兵

……

センセイ

行き場、ないんだろ？

ぼっちゃんが復員兵にとびつく

ぼっちゃん

い、いい、匂い、いい匂い、兵隊さん、いい匂い

復員兵は小さく頭を下げる

× × × × ×

——その日の夜

復員兵が加わり、皆、それぞれの場所で寝ている

奥さんはガバリと起き上がる

奥さん

(頭を押さへ)……また、虫……赤い虫……

奥さんはぼっちゃんが寝ているのを確かめるとそっと起き上がり、黒紋付の近くに行くと隠してある酒を取り出し、飲み始める。復員兵のかおをのぞきにいくと、そっと手で触る

奥さん

……よく寝てる……兵隊さん

焼き鳥屋

誰に酒を

奥さん

いやだ、驚いた……起こしちゃった？

焼き鳥屋

誰に酒をもらったとですか

奥さん

誰でもいいじゃありませんか

焼き鳥屋

もう、よした方がいい

焼き鳥屋は奥さんから酒をとろうとするが、奥さんは離さない

奥さん

ねえあなた。いつまで探すおつもりなの？

焼き鳥屋

関係ないことや、あんたには

奥さん

あるわ。だって私はこんなに楽しいのに、あなたが楽しくないのはつまらない

焼き鳥屋

……

奥さん

ねえ、忘れて

焼き鳥屋

……

奥さん

忘れて楽しくやりましょうよ。戦争バンザイ

焼き鳥屋

おい

奥さん

だってアレがなきゃ私、旦那様の影で一生を終えていたんだもの、あなたもお目にかかれなかったんだもの

焼き鳥屋

……

奥さん

戦争バンザイ

焼き鳥屋

言っついでいいコトと悪いコトがある

奥さん

怒ったの？

焼き鳥屋

……

奥さん

怒ったのね、フッフ

少しの間

焼き鳥屋

俺は忘れんけ

奥さん

……

焼き鳥屋

まだぬくもりがあるっちゃ

奥さん

……

焼き鳥屋

あいつの手のぬくもりが……俺の手をしっかりと握ってくれとったあいつの……せやけど、

あの日、焼夷弾の中で……その手を……見失った

奥さん

……

焼き鳥屋

カケラでもいい、カケラでもいいけ、見つけちやる

奥さんは焼き鳥屋の目に自分の手をあてる

奥さん

カケラ……

焼き鳥屋

ああ

奥さんは酒を飲む

奥さん

……赤い虫……

奥さんは外へと向かう

焼き鳥屋

どこ行くんね

奥さん

飲み直しよ。あゝあ、また戦争になればいいのに

奥さん、出て行き、焼き鳥屋は追いかける

復員兵はガバリと起き上がる

黒紋付

怒っちゃだめよ、兵隊さん

復員兵

……なぜ

黒紋付 色んな人がいる

復員兵 ……

黒紋付 色んな人がね

復員兵 ……我慢しろと言うのですか

黒紋付 みんなが怒ったら、元に戻っちまうだろ

復員兵 元に戻りたいですボクは

黒紋付 どこまで戻りたいの

少しの間

復員兵 わかりません

黒紋付 だったら、何もしない方がいい

復員兵 ……

黒紋付 間違ったとに戻ったら、またヒドイことになっちまう

復員兵 ……

黒紋付 さ、お休み

復員兵は立ったまま動けない

黒紋付 おいで

復員兵 え？

黒紋付 怒っててもしょうがない

復員兵 ……

黒紋付 いいからおいで

黒紋付は布団を広げ、復員兵はその中に潜り込む

黒紋付はそつと、復員兵を抱きしめ、復員兵はちいさくうなるとやがて泣き出す

× × × × ×

——数日後の昼

センセイは新聞を読んでいる。ジイさんはいない

センセイの机で復員兵がセンセイの原稿の清書をしている。原稿を待っている担当者と遊びに来ているオンリーがいる。オンリーは清書している復員兵のうしろを行ったり来たりしている

担当者 あなた、じつとなさって

オンリー 何？

担当者 (うんざりして) ですからね、原稿を清書してらっしゃるんだから、そう動き回ると気が散るでしょう

オンリー (復員兵に) そうなん？ 気、散る？

センセイ
担当者
ボクの原稿はそんな繊細なものじゃないさ、ほい、借金のカタ
あら、たったのこれだけ

センセイ
担当者
不満なら返したまえ

担当者
いえ

センセイ
さあ、行った行った。編集長によろしく

オンリー
さあ、行った行った

担当者
あなたもよ

オンリー
なんでえ

担当者
センセイは次の原稿をかかれるんです。邪魔になりますから

オンリー
ならへんよね、センセイ

センセイ
邪魔だ

担当者
ほら

オンリー
え〜

センセイ
(イライラし)出てけ、二人とも

センセイの権幕にオンリーと担当者は驚く
ジープがやってきてクラクションを鳴らす

オンリー
担当者
あ、チャーリーや、ほな、みなさんごきげんよう
では、あの、わたしも

オンリーと担当者はそそくさと帰る。どうやら担当者も乗り込んだ模様でジープが発車す
る

センセイ
「次の原稿をかかれるんです」か。言うは易しだ。でキミ、どうだった？

復員兵
え？

センセイ
清書しながらボクの読んだろ？ どうだった

復員兵
……あの、写すのに夢中で内容までは

センセイ
つまらなかつたんだね

復員兵
いえ本当に……

僕だってこう見えて若い頃は清書をやらされていたんだぜ。文字を丁寧に写していると内
容にも丁寧に触れられる……キミが興味を示さなかったのは、アレが大したシロモノでは
ないからさ

復員兵
……

センセイ
おい、正直でいろよ正直で

復員兵
……はい

センセイはイラつき新聞を投げ、復員兵はそれを拾う

復員兵
センセイ
あの、いいでしょうか
なに

復員兵 新聞を読んでも
センセイ そんなもの、断らんでも勝手にやりたまえ
すみません

復員兵は新聞を読み始める。センセイは原稿に向かうが集中できない。センセイは復員兵のうしろから、新聞をのぞきこむ

センセイ ああこれ、可愛そうな話だよ（読む）勲章をもらった少尉、イモを盗み、老女を殺害、実
刑判決……犯人は述べる「つい殺してしまいました」

復員兵 ……
イモ盗んで人殺しとは情けないが、この場合は猶子をやるべきだ
猶子？

だってほんの少し前まで、お国のためにと大勢の敵兵を殺し勲章もらった男だぜ。急に殺すなどいわれても「つい」やめられない気持ちはわかる

復員兵 ……
兵隊さん、キミはどう？ つい殺したくなることはある？

センセイ ……
まあもしも、君が誰かを殺したら今の説をのべてやるさ。法律を変えろとやってやる

闇屋のおばさんが入ってくる

おばさん （ジイさんは）どこ行ったんで？

センセイ さあ、便所じゃないか

おばさん じゃあ、待たせてもらいます

おばさんはジイさんの場所に座り、サツマイモを出して食べ始める

センセイ おばさん、気をつける。そのイモ一つで兵隊さんに殺されるかもしれんぞ

おばさん 人間、死ぬときは死ぬ

センセイ ま、そらそうだけど

おばさん けど、勝手に殺されるつちゅうのはごめんだ

おばさん、復員兵をみて

おばさん だからワシは油断はせん

センセイ さすが、おばさん

おばさんは芋を食べ続ける

センセイ おばさん、お願いがあるんだが

センセイは自分の帽子をおばさんに渡す

おばさん
なんですかい

センセイ
これをつげにさ、またヒロポン持って来てよ

おばさん
それはもうダメです

センセイ
なぜ

おばさん
センセイを病院に戻しちまったら面目ねんで

あれはキミ、ヒロポンのセイじゃないよ。アドルムの方をやりすぎたんだ。覚醒しすぎて寝れなくなつてさ、ちよつと睡眠薬を飲み過ぎたら、そっちを中毒したというバカな話さ。けどもうそんなバカはやらん、だからさ……

おばさん
……

あ、この帽子、売っちゃってもいいんだぜ、イタリーのだ、高く売れる

センセイ
(頭を下げ)すまんこつてす

おばさん
おばさん

おばさん
お嬢さんにも編集長さんにもダメだとかたく言われとりますんで

センセイ
そこを内緒で頼むよ、あれがないとボクはかけんのだ

おばさん
そんなことはねえです。頭の思い違いです。センセイさまなら素面でも書けます

センセイ
おばさん、後生だから

おばさん
(復員兵に)ジイさんにまた来ると言つといってください

センセイ
ねえ、おばさんたら

おばさん、出て行く

センセイ
頭の思い違い？ ハハ、しゃれたこと言つたつもりか、闇売りごときが……クソ、素面で書けるか。物書きはみなやつている、みなやつているんだ。君も兵隊なら知ってるだろう？ あれの高揚を

センセイは復員兵のリュクサックに目をやる

センセイ
キミ、持っていないかい？ 外地で余つたクスリを皆でわけたという話はよく聞かぜ。ある

なら出してくれ

復員兵
……

センセイ
ねえ、どうなの？

復員兵
……あの

センセイ
正直になれといったろ？

復員兵
……

センセイ
まあ、調べてみるさ

センセイはリュックサックの中身を乱暴に出し、衛生兵の腕章をみつける

センセイ キミ、衛生兵じゃないか。ますます怪しい

やがてリュックの中からモルヒネの瓶をみつける

センセイ こりや、モヒ(モルヒネ)じゃないか

復員兵 ですがそれは

センセイ すばらしい、すばらしいよ、ボクが一番欲しかったモルヒネが……夢のようだ

復員兵 ……え？

みんな軍に持っていかれちゃったからなかなか手に入らなくてね……ありがとう、キミ、本当にありがとう

センセイは復員兵に抱き着く

センセイ ……キミは天使だ。ボクの天使だ

センセイは復員兵に抱きつく

ジイさんが帰ってくる

ジイさん (抱き合う二人をみて) ……あれ、目も悪くなったかな

× × × × × ×

センセイはモルヒネの瓶をあけると、隠し持っていた注射器に中の液体を入れ、注射を打つ——みている復員兵

× × × × × ×

——次の日の夕方

センセイは必死になって何やら書いていて、復員兵はその原稿の清書をしている。ジイさんは相変わらず煙草を巻き、黒紋付は縫物をしている

復員兵 (笑う)

黒紋付 なに

復員兵 ……あ

黒紋付 珍しいわね、あんたが笑うなんて

復員兵 面白くて……つい

黒紋付 へえ、どんな話？

復員兵はセンセイを確認をとうとうとするが、夢中で書いている様子なので、小さな声で説

明を始める

復員兵　みな滑稽で、でも、最後はみな、死んでしまうんです

黒紋付　滑稽なのに死ぬって、変じゃないの

復員兵　それが面白いんですよ。犯人だと思っていたら違ったり、思わぬ人が殺されたり……でね、ボクも出て来るんです……たぶん「キュウリ」って呼ばれてるのが、ボクです

黒紋付　「キュウリ」？

復員兵　（小さな声で読む）「丘の上、ポツリと寂しげにたつ洋館。名前も知らない者たちが棲むその場所に、一人の男が現れた。そいつはまるで軒下の日の当たらない場所です。どうにか育ったという痩せて折れ曲がった粗悪なキュウリのようなだった」です。フッフ

黒紋付　粗悪なキュウリって呼ばれて嬉しいの？

復員兵　だってセンセイの小説に出て来るだけで、光栄じゃないですか。それにボク、小さい頃、本当にキュウリって言われていたんです。センセイの人を見る目は流石だなあ

黒紋付　浮かれてるわね

復員兵　すみません

黒紋付　でも、あんたは「天使」じゃないの？

復員兵　え？

黒紋付　センセイ、あんたのこと「天使」って言ってたわよ。あんたが来てから調子がいいって

復員兵　……

黒紋付　ねえ、私も出て来る？

復員兵　ええ

黒紋付　へえ、なんて呼ばれてるの？

復員兵　……団子

黒紋付　それ、あたしじゃないわよ。ねえ、センセイ……

センセイ　よし書けたっ！

黒紋付　センセイ

ああ、気持ちがいい、こんな気持ちで書けたのは久しぶりだ

黒紋付　そら、ようございました

センセイ　キミ、これを清書しておくれ。ボクはちょっと出て来る

復員兵　どちらへ

センセイ　野暮なこと聞くな

復員兵　すみません

センセイ　いや待て。キミにはお礼をしなくちゃならん。そうだ、皆で、色川（いろかわ）に鰻、食いに行こう

黒紋付　みんな？　私も？　今日はお座敷なのよ

センセイ　もちろんだ。行くとなったら、みなで行くさ。みなで

センセイはジイさんの腕をとる

ジイさん

あ？

センセイ
ジイさん
センセイ
ジイさん
センセイ
ジイさん
ああ？
ジイさん、鰻なぞ食ったことないだろ。さ、行くぞっ
ワシは、タバコを、タバコ……
買ってやるよ、タバコなんぞ、うんといいのを買ってやる
ああ？

センセイはジイさんを引き連れて行く

黒紋付、行きかけて、ついてこない復員兵をみる

黒紋付
何、してんのさ

復員兵
清書がまだなので

黒紋付
そんなの後でいいじゃない、何、真面目なこと

復員兵
……実は、続きを読みたいんです

黒紋付
鰻より大事？

復員兵
読んだらすぐに追いつきます。場所はどこですか

黒紋付
浅草よ、駅で人にきいたらすぐわかるわ

復員兵
はい

黒紋付、出て行く

復員兵は清書を始める。「へえ、こう来たか……」など、夢中になりながら——と、エンピツが折れ、ナイフを探しにセンセイの机に向かう

散らかっている机の上を整理すると、隠してあったモルヒネの瓶を見つける

復員兵はモルヒネの瓶を光にかざすと、あまり残っていない様子。復員兵はどうしようかと悩むが、誰もいないことを確かめると、リュックサックの隠しポケットをから、新しいモルヒネの瓶を出し、そっと注ぎだす

ぼっちゃんが入って来て、一部始終を目撃する

ぼっちゃん
へ、へいたいさん、な、なに、してるの

復員兵はぎよっとしてぼっちゃんを見る

復員兵
なんでもないよ、センセイの机の整理をね

ぼっちゃん、復員兵のそばによると、モルヒネの瓶を奪い取る

復員兵
おい、それはダメだよ

ぼっちゃん
こ、これ、なに

復員兵
それは大事な、ものだから

ぼっちゃん
だ、だ、いじ？ だいじ？

復員兵
ぼっちゃん
いいから、かしてごらん
や、や、やだっ

ぼっちゃんは逃げ出し、復員兵はおいかけるがぼっちゃんは屋根の上へと登る。ぼっちゃんはモルヒネの瓶の蓋をあける

復員兵
ダメだよ、それは飲むものじゃないっ

ぼっちゃん、飲もうとする

復員兵
ダメだって、ねえ、イイコだからその瓶をこっちに

ぼっちゃん、瓶を投げ、復員兵はなんとかうけとる

復員兵
……いったい……どっから入って来たんだ

ぼっちゃん
こんなお屋敷だもん。二つや三つ出入り口があってもおかしくない。キミ、物騒なことや
つてるワリには、不用心だね

復員兵はギョツとしてポツチャンを見る

ぼっちゃん
復員兵
初めまして、これが本物のボク
本物？

ぼっちゃん
復員兵
ぼ、ぼ、ぼくは、ど、どもりでもなきや、き、キ印でもありません

……

ぼっちゃん
そんな間抜けな顔するなよ、女たちが泣くぜ、キミは「天使」なんだから

少しの間

復員兵
なぜ、そんなフリを

ぼっちゃん
まあ、最初は兵役逃れのためだったんだけど、でもある時、気付いたんだ。ドモリやキチガイになつてりゃ、何をやっても「仕方がない」で許してくれる。これが実に自由でさ、いいんだよ。盗みをやっても、女子供、犯したって、無罪放免なんだぜ

……

復員兵
君も一度やってみるとわかるぜ

復員兵
あのヒトもグルか

ぼっちゃん
復員兵
違うよ。第一「ママ」がどこの誰か知らないもん

え？

ぼっちゃん
復員兵
ママの方なのさ、真のキチガイは

……

ぼっちゃん
復員兵
焼け跡見物してたらさあ「見つけたわ、あなた！」って、突然、声かけられたの。身体中、

血だらけで目もいっちゃってたから、こりゃ「家族みな空襲でオダブツ」の口だなんて可愛そうになっちゃって「ママ」って抱きついてやったわけ。そしたらもう完全に俺のこ息子だって信じちゃってさあ。あの人って見かけ山の手の風貌だろ？ だから「こりゃ息子に収まりや、もしやいい目が」ってフリを続けたワケさ。でもまあ結局、こんなところに来ちゃったんだけどね。でも「ママ」はせつせと世話してくれるし、食うもんには困らんし、しばらくはこれで良しでいいかしらんと、やってたら……君がやってきた。なにやら魂胆を持って、この家にね

復員兵

魂胆などない

ぼっちゃん

「正直になれよ、正直に」

復員兵

……

ぼっちゃん

ボクは知ってたんだぜ最初から。だってあの靴はキミの靴じゃない、駄で寝ていたヤツの足から盗んだのはボクだもの

復員兵

……

ぼっちゃん

いい時に来てくれたよ。だってこのとこ「ママ」は酒にどんどんおぼれちゃうし、その上、あの片目の焼き鳥屋に惚れちゃうし。アイツの目、義眼なんだぜ。気持ちの悪い。しかも朝鮮だしさ

復員兵

……朝鮮？

ぼっちゃん

間違いない。確かめるために「く、くさい、ご、ゴミ臭い」って騒いでみたらアイツ本気でおこってさ。ハハ、わかりやすかったら

復員兵

……

ぼっちゃん

ママは、差別と純愛、どちらに心がふれるのかしら。根がキチガイだからなかなか判断が難しいだろうねえ

ぼっちゃんはまた復員兵をつつく

ぼっちゃん

ボクはキミばかりみていたんだよ。日々、観察さ

復員兵

……

ぼっちゃん

ねえキミ、センセイをモヒ中毒にして、どうする気？

復員兵

……

ぼっちゃん

ねえねえ、どうする気なんだよう

復員兵

どうもしない

ぼっちゃん

は？

復員兵

ボクは……ボクは、ただ、センセイに面白い本を書いてもらいたくて……それで……

ぼっちゃんは笑い出す

ぼっちゃん

ウソだろ、そんなに「キュウリ」君が気に入ったの？

復員兵

……

ぼっちゃん

ねえ、じゃあさ、ボクと組もうよ

復員兵

組む？

ぼっちゃん

二人で組んでこの家も印税も頂こうじゃないか。もちろん、みんなは追い出してさ。お嬢さんはあんたにホノ字だからすぐ落ちる。キミがあきたら、俺に回してくれりゃあいいし、二人で楽しんでやってもいいさ。一生、女中みたいに働かしてやるのはどう？ モルヒネがなくなったら、俺が薬屋でも看護婦でも騙して手に入れる。キミが表の顔、俺が裏の顔で動けば最強だ

ぼっちゃんは屋根から下りると、復員兵の耳元でささやく

ぼっちゃん

「ぼくらの未来は、あ、あ、明るい」

復員兵

未来……

ぼっちゃん

そう、未来を作るんだよ、二人で

ぼっちゃんは復員兵にキスをする

ぼっちゃん

ボクはキミから離れないぜ。ずっとずっと可愛がってやる

——と、復員兵は突然、ぼっちゃんの首を絞める。ぼっちゃんは驚いたような顔でもがくが、復員兵の力は緩まない

ぼっちゃん

おい、おい、なんだよ

復員兵

未来？

ぼっちゃん

ああ、ああ、未来だ

復員兵

僕らの未来？

ぼっちゃん

そ、そうさ……き、きみ、と、ぼくとで……おい、手を離せよ、おい

復員兵

お前に、未来などない

ぼっちゃん

……ええ？

復員兵

陛下のため祖国のためボクらは死に物狂いで戦った。たくさんの仲間が命を落としたり、ただそれはお前みたいな、お前みたいなヤツの未来を守るためではない、お前に、未来を見せるためではない

ぼっちゃん

……あ……あ……

復員兵

違う、絶対に違う

ぼっちゃん

あ……

復員兵

違うっ

ぼっちゃんは——息絶える

黒紋付が入ってくる

黒紋付

迎えに来ちゃった。センセイが、あんたが来ないってあんまりうるさいから

黒紋付は床に転がっているぼっちゃんに走り寄る

黒紋付 死んでる、死んでるよ……ねえ、どうしたの

復員兵 ……

黒紋付 どうしたんだよっ

復員兵 ……

黒紋付 あんたが？

復員兵 ……

黒紋付 うそだろ

少しの間

復員兵 警察

黒紋付 え？

復員兵 警察に行かなくては

黒紋付 ダメだよ、警察なんかに行っちゃあ

復員兵 どうして

黒紋付 このみんなは闇でいろいろやってんだ、それ、詳しく調べられたらまずいだろ

復員兵 しかし

黒紋付 それに、あんた、せっかく帰ってきたんじゃないか、ねえ？ こんな子、殺して、ムシヨ

に入るなんて馬鹿みたいだよ、ぼっちゃんはさ、生きていたって、奥さんの手間になってるだけなんだから、だから、死んだ方が……

黒紋付は言葉を止める

黒紋付 いやだ……何言ってんだあたし(ぼっちゃんに)ごめんね、ヒドイこと言って。でも許し

とくれよ。あんたは死んでこの子はまだ生きてるんだから

黒紋付は家の中で「何か」を探しまわる

黒紋付 大丈夫、うまくやる。死体なら、いろいろ見てんだから

復員兵 ……いろいろ

あの戦争で、あたしは人の死に顔が、あんなにも、数限りなくあるんだって、初めて知ったよ。爆弾でやられるたって同じじゃないんだから、顔が飛ばされたり身体が飛ばされたり、全部が違うんだから。井戸に飛び込んで窒息したって、目のひん剥き方はみくくな違うんだから。同じ顔は、どれひとつとしてなかった。どれひとつ……

黒紋付は荒縄を見つける

黒紋付 大丈夫、任せときな。なんでこんな顔で死んだのか……どうやって死んだのか……あとか

ら見た人が納得するように、あたしなら、きつと、出来る

復員兵
なぜですか

黒紋付
え

復員兵
あなたは、なぜ、そんなことするんですか

黒紋付
あんたに行ってほしくないからだよっ

復員兵
……

黒紋付
あたしはね、あんたみたいな子を何人も何人も戦地に送ったの。みんなね、最後だってんで、お金使って、お座敷に遊びにくるんだよ。せっかくだからって遊びにくるんだよ。学生さんもいた、特攻の人もいた。今更って歳で赤紙が来たって泣いてる人もいた。最後の方はさ、みんなわかってたんだ。こりや無駄死になるってわかってたんだ。……だけど止められなかった。歌って踊って送り出すしかなかった。「行くな」ってその一言が、あたしは言えなかった

復員兵
……

黒紋付
だから、あんたは行かせない

黒紋付はぼつちゃんの身体を引きずっていく

× × × × ×

——数時間後 誰もいない部屋

奥さんが「酒飲み娘」を楽し気に歌う声が聞こえてくる

焼き鳥屋
おい奥さん、気を付けて

奥さんが酔っ払い上機嫌で入ってくる。焼き鳥屋が後ろからついてきている

奥さん
ただいまあ……あら、あらあら

奥さんは部屋の中を見回す

奥さん
どうしたのかしら、皆さん、お留守よ

奥さんはぼつちゃんを探す

奥さん
……あら、あの子もいないわ、帰ってると思ったのに……

焼き鳥屋
眠くなったら帰ってくるちゃ

奥さんは屋根を見上げる

奥さん
フフフ、あの子ったら、蝶々みたい

焼き鳥屋
蝶々？

奥さん
いつも、こうなもの

奥さん、手をヒラヒラさせながら

奥さん
ママ、ママ、ママって、ねえ

焼き鳥屋……

奥さんは「蝶々」を歌う（戦前の歌詞・現在への改定は1947の教科書から）
手をひらひらとさせながら、奥さんは黒紋付の場所から新しい酒を見つける

奥さん
あったわ。ちゃんと仕入れてくれてた

焼き鳥屋
……あいつが飲ましとったんか

奥さん
あら、私が頼んでいたのよ

焼き鳥屋
今日は終わりや、店でさんざ飲んだやろう

（吹き出す）だってあの方が飲ますんだもの。ほら、最後にいらした太った……本当に嫌らしい方だったわねえ、お金があるからって、えばっちゃって、どうみても……どうみても……豚みたいなのに（吹き出し）鼻なんて、こゝんな上向いて「ぶ〜」「ぶ〜」「ぶ〜」って「ぶ〜、奥さん、オラ、こんだけ金あるんだぶ〜」「だから俺のもんになれぶ〜」だから私、あるだけ飲んでやろうと思っただすわ。売り上げに貢献よ

焼き鳥屋
……
奥さん
それにねえ、爪が真っ黒なのよ、汚いたらありやしない。きつとね、あの人、朝鮮ね、炭鉱で働いていたクチだわ

焼き鳥屋
……
奥さん
旦那様がよく言っていたの朝鮮のヤツらは程度が低いから困るって、炭鉱にいたら、男も女もみさかいなく……（笑）いやだ、ごめんさい、これじゃあ、わたしも程度が低いわねえ

焼き鳥屋は奥さんの前に手を出す

焼き鳥屋
みる俺の爪を、指を、手をみる。真っ黒や、俺も真っ黒や
奥さん
え？

焼き鳥屋
奥さん。それでもあんた俺の手を握りきるね
……
あいつのように俺の手をしっかり握ってくれるね？

ガヤガヤと人の声——センセイ、お嬢さん、黒紋付、復員兵、ジイさんが帰ってくる。センセイを黒紋付と復員兵が支えている。ジイさんは自分の場所へと戻る

センセイ
や、こら、どうも、どうも皆さんっ

焼き鳥屋
ご機嫌やねセンセイ

センセイ
黒紋付
一杯で鰻をくって、それから、ちよいと一杯ね

センセイ
ヒヒヒヒ

焼き鳥屋
お嬢さんも一緒に

お嬢さん
私は……少しだけ

黒紋付
そのあと全部飲んじゃったから、センセイ、調子なんだよ
ヒヒヒ（復員兵のあたまをなで）キミが来てから、なんでもうまくいく。だって、お嬢さんと酒を酌み交わせたんだもの

お嬢さん
……

センセイ
この人はボクのことを軽蔑していたからね。そりやそうだ、だってボクは女郎屋に入り浸り、病身の奥さんを見殺しにしちゃった阿呆だから

お嬢さん
……

センセイ
でも今夜一緒に酒を飲んでくれた。うん、もういい。それだけでボクは幸せだ（復員兵に）
ほんとにキミのおかげだよ。そうだ。ねえどうだい、いつそ、キミら一緒になっちまえば

センセイは無理やりお嬢さんと復員兵の手を合わせる

お嬢さん
やめてください

お嬢さんは自分の部屋に走って行く

お嬢さんを止めようとする復員兵を黒紋付がおさえる

センセイ
ハハハ、照れちゃった

お嬢さんの叫び声——行こうとする復員兵を黒紋付がさらに止める

センセイ
なんだいもう、お嬢様は興奮しすぎだなあ

センセイはよろよろと奥へと向かう

奥さん
握るわよ、手ぐらい

黒紋付
なに？

握ってやるわ、へっちららよ、私

奥さんは焼き鳥屋の手を握る

センセイがフラフラと出て来てオエツとなる

焼き鳥屋
ダメだぜ、ここで吐いちゃ

センセイ
く、く、くび

焼き鳥屋
くび？

センセイ
奥さん
センセイ
奥さん
ぼっちゃんが……納屋で……
あの子いるの？
……納屋で……くび……
もう、しょうがないわねえ

奥さんは納屋へと向かおうとするのを焼き鳥屋が止める

焼き鳥屋

待て

奥さん

え？

焼き鳥屋

行くな

奥さん

なぜ？ ねえ、なぜ？

奥さんは焼き鳥屋を押しつけ、奥へと向かう

× × × × ×

首に縄をまいたままのぼっちゃんが運ばれてきて寝かされている。奥さんはぼっちゃんの身体をさすりながら子守歌を歌っている

センセイ

しかし……阿呆でも首は吊るんだね、驚いた

ジイさん

……どうもいけねえ

センセイ

なに？

ジイさん

ぼっちゃんは、誰かに首を吊られたようですぜ

センセイ

誰かにつてそりや、どういうことだよ

ジイさん

自分で首を吊ったんなら、この縄の痕だけだ……ほかにあったとしても、苦しくてもがいた時のもがき傷で……けどご覧せえ、この縄の傷の下……

焼き鳥屋

これね？

ジイさん

(うなずき) こりや人の指の痕だ

センセイ

……え？

ジイさん

誰かが首を絞めて殺し、それを隠すために細工したんです

お嬢さん

……うそ

お嬢さんは復員兵のうでにする

センセイ

じゃこの中に殺人者がいるかもしれないってことかな？ アハハ、こらいいや、面白い。

誰が犯人なのかしら

お嬢さん

やめてください、そんな

センセイ

みな、想像してごらん

少しの間

黒紋付
ジイさん
黒紋付

おかしな話だね
ああ、おかしい
あんただよジイさん。あんた、耳が聞こえないんじゃないのかい？
皆、ジイさんを見る

ジイさん
黒紋付
ジイさん
黒紋付
ジイさん
黒紋付
ジイさん
焼き鳥屋
ジイさん
センセイ

……こりや、どうも
あんたがぼっちゃんを？
なんでそうなる。ワシは一緒におったろ、一緒に鰻を
鰻食う前かもしれないじゃないか
ぼっちゃんを殺してワシになんの得がありますか
耳が聞こえないふりなんかして怪しいじゃないか。何企んでたんだい
別に企んどりません
けど死体に詳しすぎる、あんた何者だい
センセイ、ここでは、名前も素性もあかさねえ、約束でなかったかね
そうなんだがこの状況だ。みなが許してくれんだろ
皆、ジイさんを見る

ジイさん
センセイ
ジイさん
センセイ
ジイさん
焼き鳥屋
ジイさん
センセイ
ジイさん
センセイ
ジイさん
黒紋付

……看守を
看守？
へえ、捕虜収容所の看守をしておりました
※当時、捕虜のことを俘虜（ふりよ）と言うがここでは捕虜としておく
はあ？
だからまあ、手荒なこともやるときもありまして……それで（ぼっちゃんの首を見て）わ
かったんです
拷問か、敵兵への
上から言われましたら、ワシらみたいな下のものは従わねえと
なぜ耳が聞こえないふりしたんだい？
……人間、見場があると
見場？
耳がきこえん、こんなジジイのことなど、誰もきにせんと
……あんた、戦犯かい？
ジイさんは黒紋付を見る

黒紋付
センセイ
黒紋付

そうだよ、この人、戦犯逃れだ
戦犯逃れって……え？ このジイさんが？
あたしやね、お座敷で聞いて知ってたんだよ。捕虜をね、ひどい目に合わせた日本人には罰

「が下るってヤツをね。今まで偉そうにしてた人たちもさ」「次は誰だ?」「次はおれか?」つて、びくびく話してんのを聞いてんだよ

ジイさん

黒紋付

ジイさん

センセイ

ジイさん

センセイ

おばさん

で、それをこの子に知れて、それで殺したんだろ
殺してはいねえです、そっちはまったく違いますで
え? なに? じゃ、戦犯ってのは本当なのかい?
……申し訳ねえこつて
へえくく、そうだったの、こりや面白い
書かんで下さいよ、センセイ

闇市のおばさんが立っている

おばさん

センセイ

おばさん

センセイ

おばさん

センセイ

おばさん

センセイ

書かれたら、この人捕まって、死刑となりますんで
なるほど、おばさんが知恵の元か。おばさんがここに送り込んで……
……センセイ、頼みます
そんな顔しなさんな
……
書かないよ、書くもんか。だつておばさんはボクにとって大切な人だもの
……
ねえ

少しの間

ジイさん

おばさん

ジイさん

おばさん

ジイさん

おばさん

ジイさん

おばさん

おばさん

ジイさん

おばさん

ジイさん

おばさん

(おばさんに) おいこら、いいキリだ
え?
もう隠れとるのもしんどいで
……あんた
それになあ、耳の聞こえないふりしてそこでずっとタバコ巻いとつたら、考える時間がな
あ、山ほどあるでなあ……
……
ワシ、なんであんとき、泣いて謝るアメリカさんの首をしめたかなあと、なんで吊るした
かなあと。どっかに逃がしてやることはできんかったんかなあと
死刑になりたいかね
なつてもいいと思う時もあるで
順番が違う
順番?
あんたは一番最後だ。まずは命令したもんからだ

みな、どう答えていいかわからない
奥さんが「ああつ」と声を上げる

奥さん
黒紋付
奥さん

赤い虫、赤い虫がたくさん、たくさん
いいから、ね、もう……
赤い虫があの子の、あの子の首の周りに、そうだわ、そう、首の周りにまわりついて、
私が払っても払っても、とれなくて
……可愛そうに、可愛そうに、この子の……

奥さんは変な声を出す

奥さん

違う、この子は違う……お前は誰だ、誰だお前は……私のお子をどこにやった

奥さんはぼっちゃんの首をしめる

奥さん

お前誰だ、誰だッ、言えッ、私のあの子を、どこにやった

焼き鳥屋はぼっちゃんの死体から奥さんを引き離す

奥さん

あああああ

焼き鳥屋は奥さんを抱きしめる

焼き鳥屋

しつかり、な、しつかり、おい……

奥さん

ああああああ

お嬢さん

そんな……まさか……

黒紋付

奥さんかい、殺したのは……自分の息子を……

焼き鳥屋

そんなワケはないちゃ

黒紋付

だつてこりやそうだろう

焼き鳥屋

そんなワケはない

黒紋付

このところのお酒の飲み方は異常だったろ

焼き鳥屋

この人にそんなことが出来るち思うね？

黒紋付

でも今、みんな、みたら？ この人、首をしめたよ

復員兵

ボクだ、ボクが殺した

皆、驚き復員兵をみるが、センセイが笑い出す

センセイ

ダメダメ、それじゃあ、お話しにはならないよ。あまりにも唐突すぎる。伏線も何もない
じゃないか

復員兵

センセイ、ボクは

センセイ

読者はある程度「伏線」がないと、好まんだよ。アイツら、どんでん返しを望んでおい
て、あまりにもそれが突飛すぎると「こりやないぜ」と本を閉じるんだ

黒紋付
センセイ
センセイ
黒紋付
センセイ
黒紋付
センセイ
黒紋付
センセイ
黒紋付
センセイ

センセイ。復員さんはさ、センセイの本に出してもらえたのが嬉しくて、また次を狙って
いるんだよ
どういうこと？
ほら、この子のこと「キュウリ」って書いたでしょう、アレで癖になって
「キュウリ」がキミ？ ハハ、そりゃ違う、あれは彼さ
センセイはぼっちゃんを指さす

センセイ
キミはいい奴だ。でも本に出すには平凡だね。ポツチャンの方がうんと華があったんだ

奥さんがまた小さく子守歌を歌い出す

黒紋付
どうしたもんかねえ

俺がずっとそばにいたんだ。だから殺せるはずがない

おばさん
あんたが、吊るしたんか
なに？

男の力がないと吊るすのは無理だ。あんたが細工か、奥さんのために
違うっ

センセイ
（復員兵に）キミ、このくらいの顛末がいいのさ。このくらいが読者は安心して読み終え
ることが出来る

焼き鳥屋
センセイ、何言ってる

ジイさん
ムシヨに入れたら大変だ。乱暴される、少年を殺したとなれば

黒紋付
いえ、もつとひどいコトになるよ。だってこの人、日本人じゃあないもの
え？ そうなの？

焼き鳥屋は皆を見回す

焼き鳥屋
キチガイと朝鮮人やったら罪をかぶせたっていいっちゃうわけか

少しの間

焼き鳥屋
奥さん、行こう

奥さん
もう、お店の時間？

ああ

奥さんは皆の顔を見る

奥さん
見て、ねえ、見て

どうした

奥さん
ヘンテコだわ、みなさん、ヘンテコな顔、して

焼き鳥屋

ああ、ヘンテコや。こいつらはヘンテコや

焼き鳥屋は奥さんを連れて出て行く

センセイ

逃げなくても大丈夫だよ、みな闇の商売だ、これは内緒にしてあげよう（みなに）ねえ

皆、答えない

センセイ

終わり方が単純すぎるかな

× × × × ×

——数週間後

七厘の周りに開けられた缶詰。靴の皮をやいているオンリー、黒紋付、復員兵。黒紋付は割烹着を着ている。ジイさんはタバコを巻いている。センセイは自分の場所で原稿を書いている。オンリーは神妙な顔で肉を裏返す

オンリー

もういいやろ

復員兵

まだじゃないですかね

オンリーは一枚をとるとかじる

オンリー

微妙やな

復員兵も一枚をとるとかじる

復員兵

わ、硬い、まだ、ダメですよ、もっと焼かないと

オンリー

そうかあ

オンリーは缶詰の中に入れていた靴の皮を出して

オンリー

奥さん、どれくらい漬けてはったんやろ。あゝあ、奥さんがいてはったら教えてもらえるのに。どこ行きはってんやろ、見当もつかへんの？

黒紋付

だって名前も知らないし探しようがないだろ

オンリー

え？ まだみんな、名前しらへんの？

センセイ

ここはそういう場所だ

オンリー

あ、あれか「中途半端な場所」

センセイ

おや

オンリー

担当さんにおしえてもろてん

センセイ

キミら仲良しだな

オンリー
えくく、ちやうよお。まあけど、家族仲良くいなくなっただけから安心やけどな
家族仲良く？

オンリー
ほら、奥さんと、焼き鳥屋さん、ぼっちゃん。家族にならばったんちやう？

黒紋付
……ああ

オンリー
あ、あかん、焦げるっ

オンリー、あつちつちとなりながら焼いていた皮をクチャクチャと食べる。オバサンがやつてきて、いつものようにジイさんのタバコを数える

オンリー
あ、やわらかった、この感じ。ほらみんな、レッツトラア！や

オンリーはみんなに配り食べさせるが、皆、マズイ様子

オンリー
な、な、美味しいやろ

黒紋付
うくくく

復員兵
(そつと吐き出し) ボク、ちよつと、あつちに戻ります

黒紋付
ちよいと、一人にしないでよ

復員兵
でも、清書の続きを……

復員兵はセンセイの近くのミカン箱で清書始める

おばさん
センセイ、入りましたんで

センセイ
お、ありがと

おばさんは紙袋を渡す。アンブルなのでカチャカチャと音がる。センセイは中身を見る

センセイ
おい、これ、ヒロポンじゃないか

おばさん
(恐縮して) あれはなかなか手に入れるのが難しくて

センセイ
頼むよ、頼りにしてるんだから

おばさん
次は。はい、次は必ず

センセイは少し不服そうにアンブルをしまう

おばさん
(黒紋付に) いいんかい？ 店、並んでたよ

黒紋付
あらもうそんな？(センセイに) 今、何時です？

センセイ、懐中時計を出し

センセイ
ええと、五時少し過ぎたところ

黒紋付
あら、そりゃ急がなきゃ

オンリー 姉さん、焼き鳥屋、私も手伝わして

黒紋付 またチャーリーが焼きもち焼くよ

オンリー あんなアホアメリカ人、しらんっ

黒紋付 喧嘩？

オンリー 浮気や浮気！ ぶっさいくな日本のガールになっ！

黒紋付 あらあら

オンリー (靴の皮の入ってるお皿を持ち)これも焼き鳥の横で売ってみよか？

黒紋付 ダメだよ、お客が逃げる

オンリーは焼けた皮をパイナップルの缶詰に入れる

オンリー もう少し柔らかくすればグッドーかもよ、漬けとこ

黒紋付 はいはい、ご自由に

復員兵は清書をしながら「フッフ」と笑う

ジイさん 面白いかい

復員兵 ええ、とても。本当に面白い

おばさん ジイさんのことは出てきてないかね

復員兵 何も

ジイさん つまらんなあ

おばさん、ジイさんの頭をはたく

ジイさん イテッ

おばさん あんた、耳が聞こえないの忘れたかい

ジイさん まだやつとらんとダメかね

おばさん 油断大敵だで

ジイさん やれやれ

ジイさんはまたタバコ作りに専念する

センセイ よしっ書けた。みなで色川に鰻食いに行こう

皆、センセイを見る

センセイ オバサンもほら

おばさん ワシはいいです

センセイ まあ、そう固いこと言うなよ、ね、行こうみなで(ジイさんに)ほら

ジイさん ワシくらい残っておいた方がこの家はいいで

センセイ
また誰か首をしめられるってかい？

少しの間

センセイ
しめられるとしたら、今度はボクさ。そのボクがいくのだから安全だ（復員兵に）ほらキミも

復員兵
これを仕上げなくては

センセイ
そうか。じゃ終わったら……あ、そうだ、お嬢さんと一緒に来てくれよ

復員兵
来るでしょうか

センセイ
大丈夫さ、キミが行くと言えば

復員兵
……

センセイ
そう、その顔で

センセイたちは出て行き、復員兵は清書を始める。面白いらしく、何度も笑う——時が過ぎて行く

お嬢さんが入って来て、彼が笑っているのを見る

復員兵はみられていることに気付く

復員兵
あ、お帰りなさい

お嬢さん
ただいま……あなた、御一人？

復員兵
ええ。センセイは皆さんと色川に

お嬢さん
色川に？

復員兵
あなたとも言われています。これを終えたら行きましょう

復員兵はニツコリとわらう

お嬢さん
なぜ、そう笑えるの？

復員兵
え？

あんなことがあって、まだそうは経っていないのに

お嬢さん
……

父も父だわ。呑気すぎる。私は、行きません、失礼します

お嬢さんは部屋に戻ろうとするが、それを阻止する復員兵

お嬢さん
……あの？

復員兵
ボクら、二人きりです

お嬢さん
……え？

復員兵
いや、今、ほんとに、二人きりだと気付いて

お嬢さん
……

復員兵
この家はいつも誰かがいて……

お嬢さん
復員兵

……
少しお話しませんか？

復員兵はすわり、その横にお嬢さんを迎える
お嬢さんは少し躊躇しつつも復員兵の横に座る

復員兵

笑ってすみませんでした

お嬢さん

……

復員兵

不謹慎でした

お嬢さん

いえ

復員兵

でもあの時、あなたも笑ったんだけどな

お嬢さん

え？

復員兵

あなた、笑いましたよね？

復員兵はじつとお嬢さんを見る。お嬢さんはその場から逃れようとするが復員兵は彼女の腕をつかむ

復員兵

どうしたんです

お嬢さん

いいえ

復員兵

なにが、いいえ？

お嬢さん

私は、笑っていません

復員兵

ボクは見ていました

復員兵はお嬢さんから手を離すがお嬢さんは動けない

お嬢さん

……お知り合いだったのですか

復員兵

いえ、どこの隊の方かは知りません、

お嬢さん

……

復員兵

でも同じように南方から帰って来たことはお互いの様子でわかりました。そしてたまたま、

あの列車に乗り合わせたんです

お嬢さん

……

復員兵

新橋に着き、あなたが乗ってきました。もうすでに満員だったので、女の人がのるのは大

変だなと思ったら、あなたの後ろからのろうとした男が乗り切れず、あなたはドアのすぐ

近くに立つことになってしまった

お嬢さん

……

復員兵

あなたは開いたままのドアのレバアを握りしめ、「落ちます、落ちてしまいます。押さない

で、お願いだから押さないで」と叫んでいましたね。だけれど乗り合わせているものたちは

は「仕方ねえだろ」「なら乗るな」とか、はては「落っこちまえ」などとひどい言葉を浴び

せて。ボクはまったく悲観しました。日本の未来を悲観しました。戦争に負けると言うこ

とは美徳まで無くしてしまうことなのかと。だからボクはあなたを助けたかった。けれど、

ボクはもう列車の中心あたりまで押されてしまっていて、とてもあなたのところまでは行けそうになかった。その時、ボクよりも入り口の近くにいたあの復員兵と目があったのです。彼はボクと同じ考えだとすぐにわかりました。実際、彼はボクにニコリとすると、果敢にドアの近くまで進んでいきました。皆から「なんだ」「押すな」とののしられていたが、彼は構わず、あなたのところまでたどり着き、あなたを落下から守るため、あなたの後ろに回ったんです

お嬢さん

復員兵

あなたと彼はまるで恋人同士のように微笑み合った……ボクの荒んだ気持ちは一気に吹き飛びました。僕はこうやって「ヒト」を守るために戦ってきたんだ、僕らがいれば日本は大丈夫だと、清い気持ちになったんです。一人の兵隊が列車から落ちそうな女を救った、ただそれだけのことですが、ボクは確信しました。今後、どんなことが起こってもこの場面を思い出せば大丈夫だと。あなたたちは一瞬にしてボクの生きる糧になったのです……

お嬢さん

復員兵

その時、列車がガクンと揺れたんです。彼の身体は扉の外にはじき飛ばされました「お嬢さん、手を、手を」と彼の叫ぶ声が聞こえましたが、次の瞬間、彼の身体は外に落ちて行きました。「誰か落ちたぞ」「復員兵のようだ」「帰ったばかりで不幸なこった」そんな言葉が散り散りに聞こえました。そのあと……そのあと、あの、なんとも醜い言葉が、車内にひとつ、また、ひとつと、生まれたのです。「バカだな」「運がないねえ」「女のために間抜けだ」……そして、やがてそれが、笑い声へと変わっていきました。皆が……そうです、ほとんどの人が、ゲラゲラと笑い出したんです

お嬢さん

復員兵

お嬢さん

復員兵

ボクはあなたを求めた。この醜いキチガイの塊の中で、あなただけは……と……
けれどあなたは笑っていた。ドアのレバアをしつかり握って、手を差し伸べた様子もなく、ただ笑っていたんです

お嬢さん

復員兵

お嬢さん

復員兵

あなたは笑っていた、命をすくってもらったあの復員兵のことを
いいえ、わたしは
誰が笑おうと、あなただけは、笑ってはいけなかったのに

復員兵はお嬢さんの顔を手で覆う

復員兵

あの復員兵はボクだ。ボクたちだった。ボクは絶対にあなたを許さない

復員兵はお嬢さんの身体を離すがお嬢さんは動けない

復員兵はおおきく息をする

復員兵

……ボクはこれを伝えるために、このためだけにこの家に入り込んです。ただ、この話をあなたにしたかっただけなんだ。すぐにあなたと二人キリになれたと思っただけ、あのジイさんが……で、チョコを食べさせられて腹を下し……その後は、センセイの本に夢中にな

っちゃって……あのまま、もしかしたら、あのまま、ボクは……でもね、そしたら、ぼっ
ちゃんが……

音がする——復員兵がふりむくと担当者がいる

復員兵 あなた、聞いていたんですか

担当者 ……いえ、あの……

担当者は逃げ出そうとする

復員兵 待つんだ

担当者は立ち止まる——と、復員兵は笑い出す

復員兵 まさか、本気にしたわけじゃないですよ？

担当者 ……え？

復員兵 今の「お話し」ですよ

担当者 え？

復員兵 今、お嬢さんに聞いて頂いていたのは「お話し」です

担当者 お話し？

復員兵 ええ、ボクが作った……

担当者 え？(お嬢さんに)え？

お嬢さん ……ええ

復員兵 時々台詞も入れて頂いて膨らませて頂きつつ……

担当者 つてことは何？ 二人でストーリー作りをなさってたの？

復員兵 はい

お嬢さん ええ

担当者 も……、やだ……、驚いた……

復員兵 (苦笑する)すみません

担当者 すごく真に迫っていましたもの

復員兵 お嬢さんの「言葉」の引き出し方がうまいんです

お嬢さん いえ

復員兵 ボクね、センセイに以前、「きみは平凡だ」って言われちゃって。ほら「平凡」ってイヤじゃないですか？ どうしたらそうじゃなくなるか考えていて……それで、この話を思いついて、聞いて頂いたんです

担当者 全然、平凡じゃないっ！

復員兵 (ニッコリ笑って)よかったあ

担当者、ボ……となる

復員兵 あ、原稿、出来てます

復員兵は原稿を担当者に渡す

復員兵 色川にご一緒しましょう
担当者 え？

復員兵 センセイはもう行かれています。みなで来るよう言われていますから
担当者 わたしもいいのかしら？

復員兵 いいに決まっていますよ

お嬢さんがフラリとなる

復員兵 大丈夫ですか？

お嬢さん ……え？

復員兵 顔色が

お嬢さん 集中しすぎたんですわ「お話し」に

復員兵 すみません、ボクが……

お嬢さん いいえ、面白かったです、とても

復員兵 よかった

お嬢さんは荷物を持つと部屋に戻ろうとしてやめる

お嬢さん 私、やっぱり、鰻、食べますわ

復員兵 それがいい、セイが出ますよ

お嬢さん では一緒に

復員兵 いえ、ボクは少しここを片付けてから追いかけます

お嬢さん ……

担当者 じゃ、お先に（お嬢さんに）行きましょう

担当者とお嬢さん、出て行く

復員兵、しばらく見送ってから、洋服を脱ぎだす。そして、自分の場所から復員兵の洋服を出し帽子をかぶると、リュックサックを背負い、出て行くとする

ジープの止まる音、米兵の笑い声と女たちの笑い声

オンリーの「ちよっと待っててチャーリー、ほんまにおいしいねんから」という声とともに
オンリーと黒紋付が入ってくる。二人は真っ赤な口紅を塗っている

オンリーは「あ、これこれ」と靴の皮がはいったバイナップルの缶を取りに来る
黒紋付は復員兵を見て立ち止まる

オンリー（復員兵をみて）あら、どしたん、その恰好

復員兵
オンリー

まあ、ちょっと。あなたたちこそ、お店はそれがなく、チャーリーがソーリーソーリーって、あやまりに来てんわあ。で、これからドライブに連れてってくれんねん。でな、靴の皮の話したら、イートイートいうから……取りに……あ、あんたも一緒に行こ！ あ、けど、その恰好はあかんわ、いつものに着替えてくれへん？

ブツブツとクラクションの音

オンリー

ウエイトや、チャーリー、ウエイト！

黒紋付

着替えさせてすぐ行くから、車で待ってて

オンリー

そう？ ほな、はよね

黒紋付

ああ

オンリーはいそいそと出て行く

黒紋付

さあ、着替えましょ

復員兵

いえ、ボクは

黒紋付

ダメだよ、ダメ

復員兵

……

黒紋付

あんたは私の生きる糧なんだから

復員兵の洋服を脱がせていく黒紋付

外からはオンリーとチャーリーの「東京の花売り娘」の歌が聞こえてくる

〈終〉

◆配役（登場順）◆

ぼっちゃん 足立英
オンリー 陰山真寿美
奥さん 山像かおり
焼き鳥屋 森田順平
黒紋付 奥山美代子
ジイさん 外波山文明
センセイ 佐藤誓
お嬢さん 森川由樹
おばさん 村中玲子
担当者 難波なう
復員兵 三津谷亮
チャリー（声） 中山朋文

◆スタッフ◆

作 秋之桜子
演出 寺十吾
美術 石井強司
照明 阿部康子
音楽 坂本弘道
音響 岩野直人
衣裳 上岡紘子
小道具 のねものりか
舞台監督 井関景太
演出助手 中山朋文
稽古場協力 斉藤マサキ／舟山利也
制作助手 間宮知子
制作協力 塩田友克

宣伝美術

オザワミカ

宣伝写真 サト・ノリユキ
宣伝ヘアメイク 畑中嘉代子
舞台写真 宮内勝
舞台録画 Kazu movie
HPデザイン BUG STUDIO LLC
運営協力 難波利幸／木村彩菜
協賛 椿組
企画・制作 西瓜糖

■西瓜糖とは

二〇一二年に結成された演劇集団。文学座の役者、奥山美代子とフクダ&C。の役者、山像かおり(脚本家・秋之桜子)が主催する。二年から一年ごとに「いんげん」「鉄瓶」「じゃのめ」「モデル」「うみ」と新作公演を続け、動員数も増やし、高い評価を受けている。二〇一七年には椿組に協賛し「ドドンコドンコ鬼が来た！」で新宿花園神社野外公演を行い、野外公演最高動員数を記録。第六回公演は、二〇一八年四月「レバア」西瓜糖HP <http://suikato.blog.jp/>

■山像かおり(秋之桜子)

大阪府出身。一九八八年より文学座劇団員となり、二〇一七年文学座を退団。フクダ&C。所属。文学座公演の他、「羽衣1011」「西瓜糖」の全公演に出演。コメディから淑女の役まで多彩な表現に評価が高く他劇団、プロデュース公演への参加も多数。近年では、流山児★事務所、椿組、リリパットアーミーなど。声優としてもジュリア・ロバーツ、ジュリエット・ビノシユの声や、海外ドラマ「緊急救命室」「スーパーナチュラル」「プリズン・ブレイク」「クローザー」、アニメ「サマーウォーズ」「妖怪人間ベム」などで主演、メイン作品、多数。

●作家として2005年に青二プロダクションの渡辺美佐と二人芝居「羽衣1011」をたちあげ初めて脚本を書く(この時、皆で秋之桜子と命名)。ドタバタの中にも哀愁ある女二人芝居は評判を得る。2010年に昭和の文士たちをモデルにした作品「猿」にて第十六回劇作家協会新人戯曲賞優秀賞受賞。2012年からは演劇集団「西瓜糖」にて、大正く昭和を背景に時代に流される人々を描き、ザラツキのある物語を創作している。他…椿組、花組芝居、劇団昴(2013年シアターグリーンBIGTREETHEATER賞「暗いところで待ち合わせ」の脚色)わらび座(子供ミュージカル)など多くの中小劇団、プロデュース公演の脚本のほか、劇場アニメ「プリンセスプリキュア パンプリン王国のたからもの」(15年東映)、小説「GO!プリンセスプリキュア 花とレフィの冒険」(講談社)など、あらゆるジャンルに作品を提供。日本劇作家協会所属。

■奥山美代子

札幌市出身。1989年、文学座附属演劇研究所入所。鶴山仁演出『 Greeks』で初舞台。文学座作品に多数出演。他劇団、プロデュースでは『あうん』『恋文屋一葉』『あの日僕だけが見られなかった夜光虫について』『墮落美人』等。『ヴェニスの人』『ハムレット』などのシェイクスピア作品は8本いずれも主演、メインを務めている。男役も得意。2012年からの西瓜糖作品には全作品出演。演技指導者としても、人気講師で演劇養成所や声優養成所で活躍している。

※この脚本の複写・無断使用を禁じます。

脚本使用のお問い合わせ・演出・出演依頼はフクダ&C。(福田)まで

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2丁目5-3 一ツ橋フォレスト 802

TEL 03-6272-8978

FAX 03-6272-8979

E-mail info@fukuda-and.co